

付 議 第 8 号

高知県立高等学校の分校並びに課程、学科及び科の設置に関する
規則の一部を改正する規則議案

高知県立高等学校の分校並びに課程、学科及び科の設置に関する規則（昭和48年高知県教育委員会規則第6号）の一部を別紙のとおり改正することについて、高知県教育委員会事務委任等規則（平成4年高知県教育委員会規則第1号）第2条第3号の規定により議決を求めます。

高知県教育委員会事務委任等規則

第2条 教育委員会は、次に掲げる事務を除き、その権限に属する事務を教育長に委任する。

(3) 規則及び訓令を制定し、又は改廃すること。

教育委員会規則

高知県立高等学校の分校並びに課程、学科及び科の設置に関する規則の一部を改正する規則をここに公布する。

平成29年3月 日

高知県教育長 田村 壯児

高知県教育委員会規則第 号

高知県立高等学校の分校並びに課程、学科及び科の設置
に関する規則の一部を改正する規則

高知県立高等学校の分校並びに課程、学科及び科の設置に関する規則（昭和48年高知県教育委員会規則第6号）の一部を次のように改正する。

本則の表高知県立安芸桜ヶ丘高等学校の項中「環境エネルギー科 環境建設科」を「環境建設科」に改める。

附 則

（施行期日）

- 1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この規則による改正前の高知県立高等学校の分校並びに課程、学科及び科の設置に関する規則の規定により設置された高知県立安芸桜ヶ丘高等学校の全日制の課程の環境エネルギー科（以下この項において「環境エネルギー科」という。）は、この規則による改正後の高知県立高等学校の分校並びに課程、学科及び科の設置に関する規則の規定にかかわらず、平成30年3月31日に環境エネルギー科に在学する者が環境エネルギー科に在学しなくなるまでの間、なお存続するものとする。

高知県立高等学校の分校並びに課程、学科及び科の
設置に関する規則の一部を改正する規則議案説明

1 一部改正の目的と内容

東部地域の生徒数が減少する中、高知県立安芸桜ヶ丘高等学校の環境エネルギー科の入学者数は著しく減少しており、今後も入学者の増加が見込めないと判断した。そのため、高知県立安芸桜ヶ丘高等学校の学科の改編についての検討を行った結果、環境エネルギー科を募集停止しようとするものである。

2 施行期日

平成 30 年 4 月 1 日

新 旧 対 照 表 旧

高知県立高等学校の分校並びに課程、学科及び科目の設置に関する規則（抜粋）

県立高等学校にそれぞれ次の分校並びに課程、学科及び科目を置く。

| 学 校 | 本・分校 | 課 程 | 学 科 及 び 科 目 |
|-------------------|------|--------|--|
| 略 | 略 | 略 | 略 |
| 高知県立安芸桜ヶ丘 高等学校 | 本校 | 全日制の課程 | 工業に関する学科 環境建設科 商業に関する学科 情報ビジネス科 |
| 略 | 略 | 略 | 略 |

新 旧 対 照 表 旧

高知県立高等学校の分校並びに課程、学科及び科目の設置に関する規則（抜粋）

県立高等学校にそれぞれ次の分校並びに課程、学科及び科目を置く。

| 学 校 | 本・分校 | 課 程 | 学 科 及 び 科 目 |
|-------------------|------|--------|--|
| 略 | 略 | 略 | 略 |
| 高知県立安芸桜ヶ丘 高等学校 | 本校 | 全日制の課程 | 工業に関する学科 環境工ネルギー科 環境建設科 商業に関する学科 情報ビジネス科 |
| 略 | 略 | 略 | 略 |

参考資料 2

高知県立安芸桜ヶ丘高等学校の学科改編について

現状

工業に関する学科

環境建設科 (40名)
入学時から土木専攻 (20名) と建築専攻 (20名) に分けて募集

環境エネルギー科 (40名)
2年次から環境工学コースと電気システムコースを選択して学習

商業に関する学科

情報ビジネス科 (40名)
2年次からビジネスコースとデザインコースを選択して学習

安芸桜ヶ丘高等学校は、工業科と商業科の併設校であるが、入学者が定員の半数に満たない状況が続いている。特に、環境エネルギー科では、5年連続して、定員の半数を下回っている。こうした状況を打開するため、SAKURAプロジェクトとして、地元企業との商品開発や防災教室や出前授業の実施など、地域との連携を強化してきたが、入学者の増加にはつながらなかった。

学科改編の方向性

今後、生徒数が減少する中であっても、東部地域において、ものづくりや資格取得等の取組をさらに推し進め、環境に配慮したインフラ整備に関わる建設技術者の育成に努めるため、環境建設科のみの1科に改編する。

新たな学校の姿

工業に関する学科

最新の設備と器械を使って、測量や土木設計といった基礎的な知識をわかりやすく学習するとともに、土木技術者にとって重要な図シミュレーション学習も多く取り入れる。

建築物の構造や構造設計の基礎知識をわかりやすく学習しながら、ものづくりをはじめ、製図、CADによる図面作成、設計競技への参加をおおして芸術的感性と工学的知識を養成する。

商業に関する学科

2年次からビジネスコースとデザインコースに分かれ、ビジネスコースではビジネスに関する各種検定にチャレンジすると共に、社会人として不可欠な“コミュニケーション力”、“実践力”、“企画・提案力”などを養う。また、デザインコースでは、デザイナーのフロアが使用しているソフトウェアを使って作品を制作するとともに『素戔嗚の学習を通してデザイナー作品制作のための基礎作りを行う。』

環境建設科
土木専攻
(20名)

建築専攻
(20名)

情報ビジネス科
(40名)

参考資料 3

工業系学科と商業系学科を併設する県内唯一の専門高校として、工・商の学科連携をおおして、よりのバランスのとれた、より深く地域に根差した産業人を育成!

※ホームページ参照 <http://www.kochinet.ed.jp/akisakuragaoka-h/>

11月1日は高知県教育の日「志・と・き・学・びの・日」
(11月1日から7日まで「と・き・学・びの・週」)

高知の教育について、いっしょに考えてみませんか?
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310101/manabinochi.html>

「高知県立安芸桜ヶ丘高等学校の学科改編」へのご意見に対する考え方

高知県立安芸桜ヶ丘高等学校の学科改編について、平成29年2月1日（水）から平成29年3月2日（木）まで県民の皆様からのご意見を募集しましたところ、1名の方から1件のご意見をいただきました。お寄せいただいたご意見とご意見に対する考え方について、下記のとおり取りまとめましたので、公表します。ご意見をお寄せいただいた方に厚くお礼申し上げます。

| 項目 | 番号 | ご意見の概要 | ご意見に対する考え方 |
|----------|----|---|---|
| 学科改編について | 1 | <p>高知東部の人口は、20年前から半減して、5万余人と減っている。特に若者を中心に学童・保育の子供の数は、激減している。この様な人口減の厳しい現状で、かつて隆盛した電気科や工業化学科を改編した、環境エネルギー科の来年度募集停止の報に接し、感無量の思いがする。</p> <p>阪神淡路大震災で兵庫県の3重塔以上の塔13棟は、1塔も倒壊しなかつた。古文書や津波の碑柱、ボートリングによる地層の堆積物を調査し、繰り返される巨大地震を予測・予知して、防護を固め未来に備える為に、防災建築コースの設置が必要でありま</p> <p>す。</p> <p>防災建築コースでは、火事による災害を学び、消防法を学習して消防設備士の取得も目指すことや、給排水設備の基礎的技術を身につける人材の育成をする。また、建築法規・建築史、南海トラフ巨大地震のメカニクス、海溝型地震と津波などについて学習する。</p> <p>気象学、流体力学、ユニバーサルデザインを取り入れた建築教育も行う。</p> <p>防災建築コース（専攻）の教育目標は、日本列島で起こる巨大地震災害・自然災害・火災等から、人間の生活環境を包む建築と都市空間の防災・減災・遺産の継承・造形的・芸術的分野も含めて、快適で安全安心な創造型未来社会の実現を目指す、社会に貢献する人材の育成をする。</p> <p>県人口が、2017年1月1日時点で、71万人台になり60年には、39万人になると見込まれているとの報道を聞き、長年の研究や体験・知見から、最も国家的被害の多い被災建築物の人命や財産を守る防災・減災、事故防止になる、新しい防災建築学を学び、社会貢献型人材の育成こそが、喫緊の課題と考えて、誤字・脱字・私的御研究も踏まえ、最後の御返しをしたと考えて、提案する。</p> | <p>南海トラフ地震の発生が予測されている高知県において、防災教育や被災後の復興を支える人材の育成は大切なことです。そのため、高等学校段階においては、そういった分野で活躍できるための上級学校への進学や就職などの進路を実現するための基礎学力を身に付けることが重要となつてまいります。</p> <p>安芸桜ヶ丘高等学校は工業科と商業科を併置する産業系専門高等学校であり、環境建設科では、建築や土木に関する基礎的な知識と技能の習得や基本的な資格取得を目指す進路を進めております。ご意見をいただきました防災に関する専門的な学習においては、上級学校で学習することや就職した事業所で経験を積みながら資格を取得することなどで、防災や復興で活躍できる人材になつていただきたいと考えております。こうしたことから、高校では基礎的な知識や技能を身に付け、その上の段階で専門教育として防災教育を学ぶのが望ましいと考えており、防災に特化した産業系専門学科や専攻の設置は考えておりません。</p> <p>防災教育につきましても、特定の学校や学科ではなく、すべての学校で取り組んでおきますし、今後も、地域との連携も深めながら、取組の充実を図ってまいります。</p> |

安芸桜ヶ丘高校の定員管理について

- H26 年度に学科改編を計画したが、県立高等学校再編振興計画を策定する過程で、後期実施計画の中で安芸桜ヶ丘高校のあり方も含めて検討することとなり、学科改編は見送ることとなった。
- 学校は、そのときの振興策として SAKURA プロジェクトを立案し、取組を進め、出席状況などは改善されたが、入学者の増加にはつながらなかった。

(参考) 入学者の状況

| 学科名 | | 定員 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 |
|----------|------|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 環境建設科 | 土木専攻 | 20 | 15 | 9 | 13 | 10 | 12 | 9 | 6 |
| | 建築専攻 | 20 | 15 | 7 | 9 | 8 | 3 | 6 | 4 |
| 環境エネルギー科 | 計 | | 34 | 26 | 14 | 5 | 15 | 11 | 3 |
| | コース | 環境工学 | 14 | 18 | 4 | 1 | 6 | 6 | — |
| | | 電気システム | 16 | 6 | 9 | 4 | 5 | 4 | — |
| 情報ビジネス科 | | 40 | 38 | 24 | 34 | 17 | 24 | 21 | 14 |
| 計 | | | 102 | 66 | 70 | 40 | 54 | 47 | 27 |

(参考) 室戸市、中芸地区、安芸市、芸西村の中学校卒業生の推移と入学者推計

| | H28.3 | H29.3 | H30.3 | H31.3 | H32.3 | H33.3 | H34.3 | H35.3 | H36.3 | H37.3 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 中学卒業生数 | 363 | 323 | 328 | 293 | 290 | 286 | 286 | 299 | 270 | 265 |
| 入学者数 | 27 | 39 | 40 | 35 | 35 | 34 | 35 | 35 | 33 | 29 |

- うえの入学者の状況や中学校卒業生の推移と入学者推計から考えると、H29 年度の入学定員で安芸高校や宿毛高校の入学定員を削減する中で、さらに入学定員を割っている安芸桜ヶ丘高校を後期実施計画の施行される H31 年度まで現在の入学定員を維持することは現実的ではない状況である。

案 環境エネルギー科を募集停止とし、閉科する。環境建設科の土木専攻と建築専攻（定員 40 名）、情報ビジネス科（定員 40 名）の 1 学年 2 学科 80 名の定員とする。

* 平成 29 年度から着手する後期実施計画の中で、東部地域全体を考慮した学校のあり方を検討する。

(参考) 前期実施計画の東部地域に関する文言

生徒数の減少が見込まれる中で、田野町と安芸市にある中芸高校、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校の 3 校の将来的な在り方を検討する必要がある。

(参考) H26 年度の案

・学科改編を行い、建設・電気工学科 40 名（建設専攻 20 名、電気専攻 20 名）、情報ビジネス科 40 名とする。

課題：学科を再構成するだけなので、改編してもそれぞれの専攻が 10 名を超える見込みがない状況である。